

## 平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

**※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。**

### 1. 学校概要

学校名 名古屋大学教育学部附属中・高等学校

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中等教育学校  
 教員養成  技術/職業教育  
 その他（併設型中高一貫校）

住所 〒 464 - 8601  
愛知県名古屋市千種区不老町

E-mail : \_\_\_\_\_

Website : http://highschl.educa.nagoya-u.ac.jp/Joomla/

児童生徒数：男子 292 名 女子 301 名 合計 593 名  
 児童・生徒の年齢 12 歳～ 18 歳

### 2. 担当者 ※公表しません

### 3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（ ）

### 4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容については、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

## 総合人間科計画(総合的な学習の時間)

(中学1年生)

テーマ 「生き方を探るⅠ」 サブテーマ 出会いから自分の進む道を考えよう

- ・「持続可能な開発のための教育(ESD)との関わり  
自分で未来を創るために必要な具体的な手段(たとえば身近な人から初対面の人への出会いを広げていく)を知り、これを1年かけてじっくりと学ぶ。総合人間科を6年間学ぶための基本的なスキルの習得を目指す。学校で学ぶ教養や他人との関わりあいながら、自己決定する経験を積み、自分の生き方について能動的に考える力を育てる。

(中学2年生)

テーマ 「生命と環境Ⅰ」 サブテーマ 「上高地から世界を眺める」

- ・「持続可能な開発のための教育(ESD)」との関わり  
現在社会が直面する「生命と環境」の問題は、ESDのまさに本領とするところである。林間学校におけるFWを頂点としたグループ研究を通じて、持続可能な在り方を追求する。

(中学3年生)

テーマ 「国際理解と平和Ⅰ」 サブテーマ 気付く、創る、繋げる

- ・「持続可能な開発のための教育(ESD)」との関わり  
原爆による被害を受けた国として、同じことが繰り返されないよう、広く世界に働きかけていく。生涯を通して国際理解・平和に関心を持ち、主体的に考えていけるよう、現段階での小さな興味を、個人やグループで大きな問題へと発展させ、考えの深化を経験する。

(高校1年生)

テーマ 「生命と環境Ⅱ」 サブテーマ 足元から考える

- ・「持続可能な開発のための教育(ESD)」との関わり  
現代社会が直面する「生命と環境」の問題は、ESDのまさに本領とするところである。FWを頂点とした個人研究と、林間学校での実体験などを通じて、持続可能な在り方を追求する。研究が現代社会にとってどのような意味を持つのかを意識しながら進める。

(高校2年生)

テーマ 「国際理解と平和」 サブテーマ 沖縄に学ぶ

- ・「持続可能な開発のための教育(ESD)との関わり  
フィールドとしての沖縄の諸問題(本州とは異なる沖縄の歴史的位置・戦争の問題・米軍基地問題・自然破壊問題など)は、現在の国際社会が抱える諸問題の縮図と言える。沖縄の諸問題を自分たちにつながる問題と認識し、その解決策を探る。

(高校3年生)

テーマ 「生き方を探る」

- 「持続可能な開発のための教育(ESD)」とのかわり  
・フィールドワークでインタビューを行い、他者の生き方から参考となる考え方を学ぶ。  
また、スピーチや原稿執筆を行うことで、言語運用能力を高める。

## 学校設定教科・「自然と科学」「情報と社会」

概要)

全員必修の授業であり、高校1年生と2年生で実施している。高校1年生では、「自然と科学」、高校2年生では「情報と社会」を開講している。既存教科のみでは十分扱うことができない教科横断的な課題について考える授業である。既存の知識を関連させながら、答が一つに定まらない課題について考えることによって、単一の明確な答が用意

されていない課題を扱う高等教育における学びへとつなげていく教科である。ている。  
学習方法)

高校1年生は「自然と科学」をテーマに、前期と後期に分け1単位の授業を行う。同様に、2年生では「地球市民学」をテーマに前期と後期に分けて授業を実施する。2年間で合計2単位の実施となる。

各講座とも、本校教員3人によるティームティーチングにより行われる。各講座には、総合コーディネーター・助言者の大学教員が付き、高大連携の授業を行う。2013年度の「自然と科学」では、名古屋大学博物館と連携して、前期は数学・化学・世界史、後期は物理・数学・公民の教科(科目)間連携で実施している。また、「情報と社会」では、名古屋大学教育学部、他大学と連携し、前期は、英語・国語、後期は、英語・家庭・体育の教科(科目)間連携で実践している。

学習形態は、1クラスをテーマ毎に3つに分けグループ学習を展開し、生徒が主体的に参加できる授業を心がけている。また、テーマによっては、合同授業も行い共通の理解を深め、他のグループとの交流も実施し、学習を深化させる取り組みも行っている。

## グローバル・コミッティー(ユネスコクラブ) 活動内容)

- ・毎月1回、TV会議で、モンゴル国新モンゴル高等学校と交流
- ・海外の学校を手紙を通しての交流(タイ国・リトアニア)
- ・「高校生ESDコンソーシアム in 愛知」での活動

(2) 活動時間について(下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用(総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他( )